

# ねりまの文化財

## 文化財を楽しんでみませんか

### 文化財講座のお知らせ

#### 文化財を楽しもう

—区内文化財と調べて歩く—

区内には多くの有形・無形の文化財があります。これらの文化財は郷土の歴史や昔の生活の様子を私たちに伝えてくれる貴重なものです。講座は二日制で、講演と講義で学習した後、事前調べを行った受講者が六コースに分かれて区内文化財の見学実習を行います。

○日時 講演・講義 三月五日(火) 午前10時〜正午

見学実習 三月二日(火)・三日(水)のどちらか選択

○会場 講演・講義 区役所本庁舎 二〇階交流会場

見学実習 区内の設定コース

○内容 ・講演 「石神井城の攻防」  
・講義 「文化財の調べ方」

○定員 六〇名(抽選)  
○費用 保険料 五〇円  
○申込み 二月一日号ねりま区報を閲覧ください。

#### 練馬区の伝統工芸 工房訪問

区内に伝わる伝統工芸のうち、東京手描友禰、東京染小紋、江戸表具の三業種について実施します。午前中に三業種の歴史や技術を講義で学習し、午後からは、選択した工房に分かれて見学します。

○日時 三月八日(金)

・講義 午前10時〜正午  
・見学 午後一時三〇分〜三時

○会場 区役所本庁舎一九〇三会議室

○内容 見学は各工房に現地集合  
講師 練馬区伝統工芸会会員



工房見学風景

練馬区教育委員会  
生涯学習課  
(文化財係)  
☎ 3993-1111  
〒 176-8501  
練馬区豊玉北6-12-1

#### ねりま郷土史を 楽しもう

郷土史に関わる講演や区民の研究発表等を通して、郷土研究の現況を学びます。雨天で中止となった「石神井城フォーラム二〇〇一」で予定していたパネル展示等も合わせて行います。

・東京手描友禰 江上昌幸氏  
・東京染小紋 田島輝久氏  
・江戸表具 萩原秀治氏  
○定員 六〇名(抽選)  
○申込み 二月一日号ねりま区報を閲覧ください。

○日時 三月一日(日)  
午前10時〜午後四時三〇分  
○会場 区役所本庁舎二〇階交流会場  
○内容  
△I部▽  
◇講演会 「歴史研究と郷土史」  
講師 松下正己氏  
◇パネル展示  
「ねりまの文化財探訪」  
「石神井城跡の調査・出土品」

△II部▽  
◇区民の郷土研究発表  
・「漫談で語る練馬大根の話」  
発表者 新井まさし氏  
・「伝説から読み解く豊島氏の滅亡」  
発表者 葛城明彦氏

・「板碑にみる練馬区・石神井川流域の歴史所見」  
発表者 中山幸一氏  
◇区内郷土史研究団体の活動紹介  
・練馬郷土史研究会  
・練馬古文書研究会  
・練馬区地名研究会

◇石神井城跡発掘調査報告  
○定員 I部、II部各六〇名  
○申込み 二月二日号ねりま区報を閲覧ください。

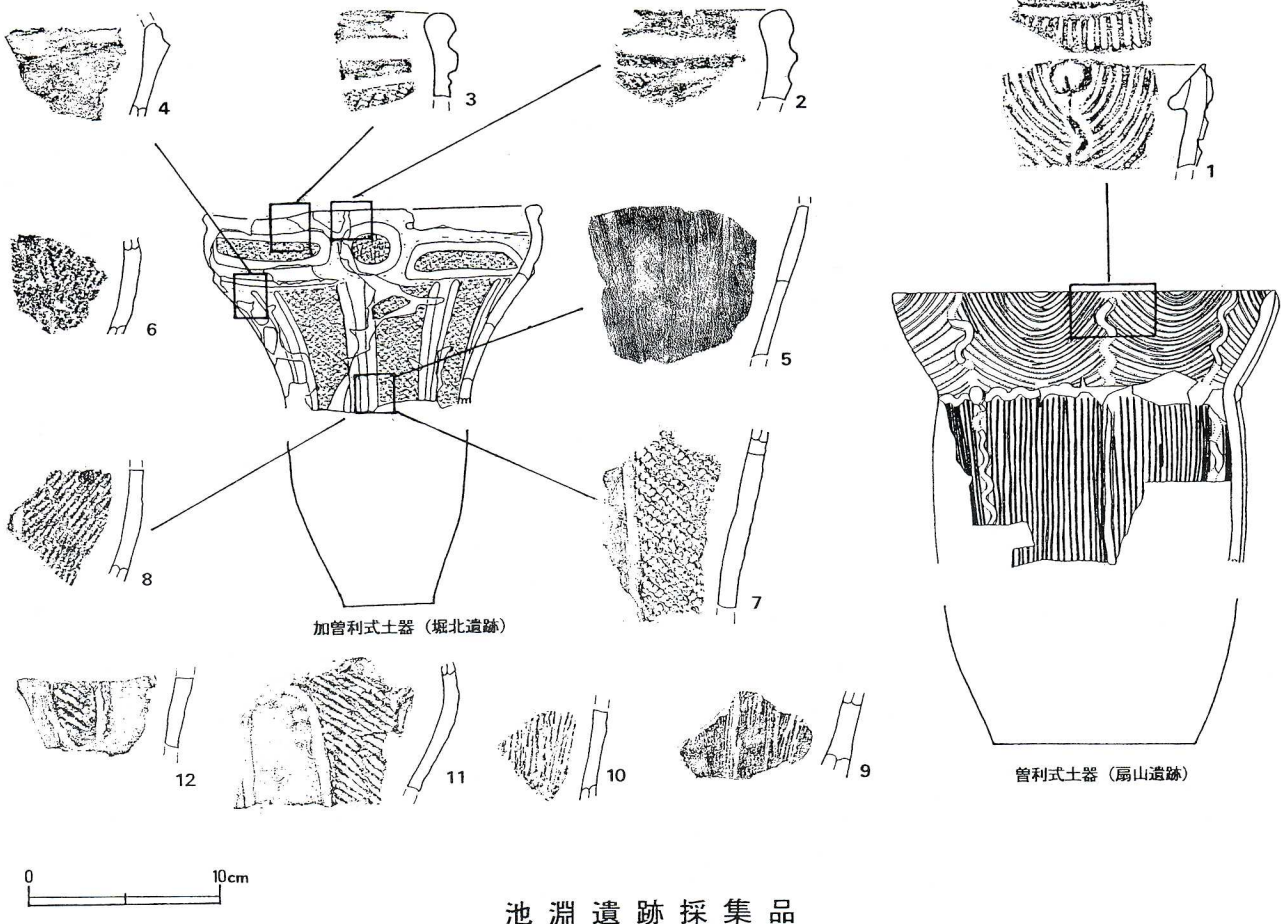
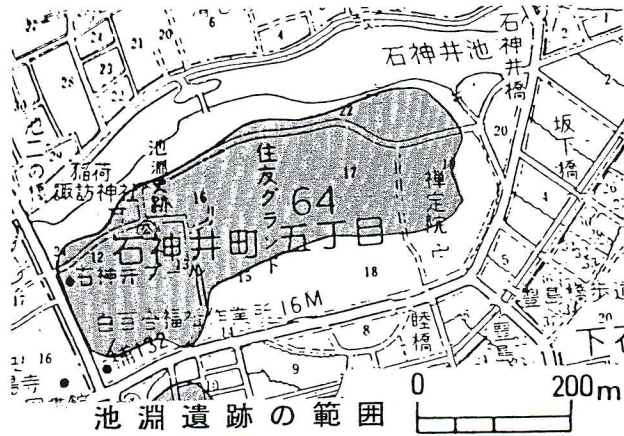
○問合せ いずれの文化財講座も区役所内文化財係へ

# 寄贈された縄文 土器の紹介

今回ご紹介する縄文土器は、区民が石神井町五丁目一七番他の住宅地で採集したというもので、平成一三年一月二日に寄贈されました。採集地は縄文時代中期の集落などが発見されている池淵遺跡にあたります。寄贈遺物は、縄文時代中期の土器片が一八点と石器片一点です。このうち図示できたものを紹介します。

1～10は縄文時代中期後葉の土器で、約四五〇〇から四〇〇〇年前のもので、1は「曾利式土器」の口縁部破片です。石神井台四丁目に所在する扇山遺跡と同じような土器が出土しています。曾利式土器は山梨県や長野県で多く出土する土器です。竹の棒を半分に切った道具で線を描いた後に、粘土をソーメンのように細かくして貼り付けて装飾しています。2～10は「加曾利E式土器」です。関東地方の土器で、縄を転がした上に棒状工具などで文様を描く特徴をもっています。2～8と同じような土器が、富士見台四丁目に所在する堀北遺跡で多数出土しています。器面全体に縄文をつけた後に、縦あるいは横に棒状の工具で装飾しています。2と3は口縁の部分で、4は口縁部に近い部分、5～8は胴部下半です。

9と10は器面全体を櫛状工具で装飾しています。11と12は加曾利E式土器でも中期の終わりの土器です。池淵遺跡は標高約四六m。東に突出した舌状台地の先端部に広がる遺跡で、北側は石神井池、西側は三宝寺池で、南に石神井川が流れています。昭和四七～四八年に区立運動場建設に先立って発掘調査を実施したところ、縄文時代中期の竪穴住居跡が多数発見されました。現在、住居跡などの遺構は土を埋め戻し、「池淵史跡公園」として、約七七〇〇㎡が保存されています。



# 学童集団疎開に関する資料が寄贈されました

このたび、榎本正子さん・矢島秀世さんご姉妹(旧姓竹内)から、学童集団疎開に関する資料が郷土資料室に寄贈されました。

学童集団疎開は、第二次世界大戦中、アメリカ軍による空襲・爆撃から学童の生命を守るため、子どもたちを集団で都市から安全な地域へ避難させるものでした。区内の国民学校(現小学校)では、昭和十九年(一九四四)八月に、疎開が始まりました。子どもたちの多くは親元を離れ、疎開先で終戦を迎えることとなりました。区内の国民学校の場合、疎開先は群馬県でした。

正子さんと秀世さんは、開進第三国民学校在学中の昭和十九年(一九四四)八月七日に、群馬県碓氷郡磯部町(現安中市)へ集団疎開しました。今回の寄贈資料は、お二人が疎開先から両親や幼い弟妹に宛てて書いた手紙の綴り一冊、両親から疎開先の二人に送られた手紙の綴り一冊、疎開当時の写真二三枚で、昭和十九年(一九四四)八月から翌年七月までのものです。

学童の疎開先は、通常は寺院や旅館、公会堂などで、二人の疎開先も磯部温泉

の小島屋(その後、鳳来館、ついで旭館へ移る)という旅館でした。手紙には、そこでの一日の生活が、朝の乾布まさつから就寝まで、絵で描かれています。これは、二人が両親に疎開先での一日の暮らしぶりを知らせようとしたものです。疎開した当初、正子さんは国民学校五年生、秀世さんは同校の三年生でした。

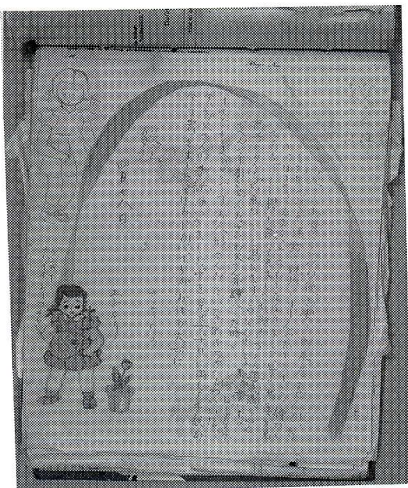
幼い二人にとって、親元から離れて暮らすのはやはり寂しいものだったようです。両親に宛てた手紙にはその心持ちがしばしば吐露されています。たとえば、正子さんの手紙には「おとこの晩など月がよく出てみましたので、月を見ながら、静かな歌を歌ひました。私もそばにゐてきいてみました。私は何だかかなくしくなってきた涙がぼろぼろとたれて来ました」、「それから玲子ちゃん(お二人の妹)をつれて来てください、いつも顔が見たくて写真を見て涙をながしてゐますもう見たくて見たくてたまりません。ゆめもずいぶん見ました。家へ帰って玲子ちゃんとおそんてお母様がよんだので『はあい』と大きな声でへんじをししたら目がさめてしまひました」、「このごろお父様お母様から小包、手紙がこないの

で心配でしやうがありませんから、一つうでも多く小包、手紙を下さい、こないかこないかと毎日局まで小包、手紙をまわります。こないとがっかりしてしまひます」などと記されています。疎開先での心細い生活の中で、両親からの便りを心待ちにしていた様子が伝わってきます。

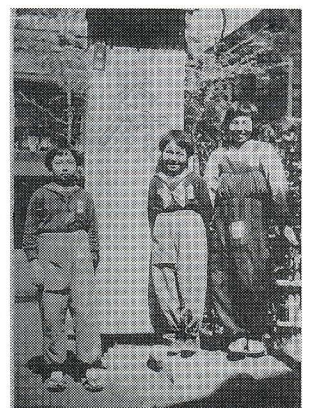
一方、両親から二人に宛てた手紙は、子どもたちの疎開生活を心配したり、子どもたちを激励したりする内容で、両親の子どもたちへの愛情が窺えます。また、親元の近況についても書かれており、練馬での食料事情がだんだんと悪くなってゆく様子や空襲の様子など、戦時中の厳しい社会情勢を知ることができます。

このように、今回寄贈していただいた資料は、戦争中の学童をとりまく状況や心情などを窺うことのできるものです。戦時中の生活の様子を知り、戦争と平和の問題を考える素材として大変貴重な資料だといえます。末筆ながらご寄贈いただいた榎本さん・矢島さんご姉妹に御礼申し上げます。

※ 引用文は原文のままです。



両親に宛てた手紙



疎開先の「鳳来館」の前で

★写真で調べられます

「ねりまの散歩道」

区では、「ねりま」について区民の皆さんに、より一層の関心と愛着をもっていただくとうと、「ねりまの散歩道」を九コース設定しています。

このたび、区内にお住まいの須藤喜一郎さんから郷土資料室に、「写真集 ねりまの散歩道」(アルバム帳一〇冊)が寄贈されました。

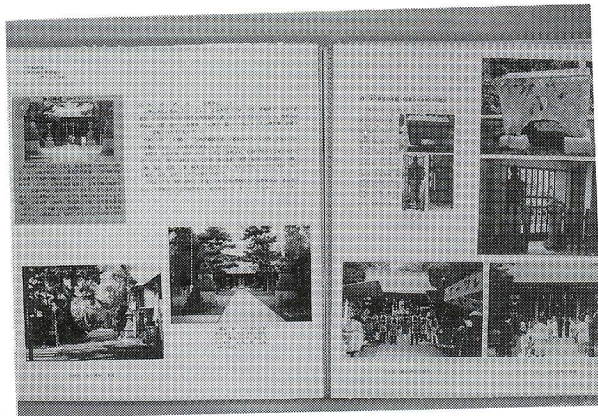
この写真集は、須藤さんが「ねりまの散歩道」を歩きながら、コース内の文化財や自然などを撮ったものです。説明文や関連施設のパンフレット等も添付されています。「ねりまの散歩道」を歩く前に、この写真集をご覧になれば、より楽しく歩くことができます。また、地域を調べるときの手掛かりにもなると思います。郷土資料室で、ご覧いただけますので、どうぞご活用下さい。

▼問合せ 郷土資料室

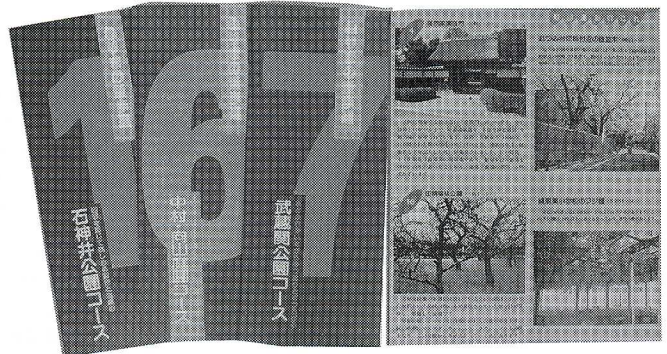
石神井台一―一六卜三二  
石神井図書館地階

☎399610563

(月曜日・第四金曜日は休室日)



須藤さん作製のアルバム



「ねりまの散歩道」パンフレット(本庁舎2階 区民情報ひろば・16階都市計画課窓口で配布)

火災から文化財を守ろう!

毎年、一月二六日は「文化財防火デー」です。この日を中心に、全国各地で文化財を火災や地震から守るための防災訓練が行われます。

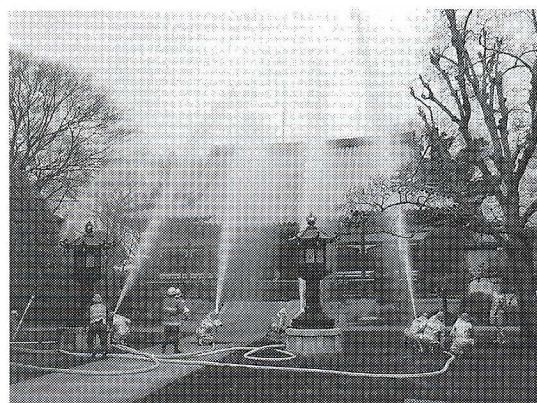
昭和二四年一月二六日、法隆寺金堂で火災があり、世界最古の木造建築物に描かれた白鳳時代の壁画が焼損しました。昭和二五年七月には金閣寺が火災に遭い、これらの事件は、当時の国民に強い衝撃を与えました。

国は、文化財を火災等から守るため、昭和二九年に、法隆寺金堂が焼損した日、一月二六日を「文化財防火デー」と定めることにしました。

文化財は、一度火災で焼損してしまうと再生することが出来ない、かけがえないものです。このような文化財を火災から守り、次の世代に伝えていくためには、関係機関や文化財所有者だけでなく、区民の皆さん一人ひとりのご理解とご協力がが必要です。それぞれの立場から予防策を強化するなど、ふだんからの注意を心掛けたいものです。

区内では、練馬・光が丘・石神井の三消防署が防火デー前後に消防演習を行い

ます。日時と場所は区報でお知らせします。ぜひ見学にお出掛けください。



昨年の消火演習(愛染院)

へお悔やみ申し上げます  
瓜生 清さん 八一歳  
(平成一三年一月二一日逝去)  
練馬区文化財保護推進員。大泉町土支田、三原台地区を推進員として担当されていました。  
郷土史研究・文化財保護に多大な貢献をされました。